

## 河合塾の文化活動の歩み

私どもはこの10年間さまざまな催しを企画、実行して参りました。

これらは私どもの日々の教育活動における必要性から自然発生的に生まれ、育って来たものであります。

当初は塾生や教職員を対象としたものでありましたが、最近では次第に多くの研究者・学生・社会人の皆様からのご理解とご支援をいただくようになりました。

今まで実施した主な催しは別紙の通りですが、その中から最近の2、3の例をご紹介します。

○83/10 NASAの宇宙飛行士 J. R. ルースマ博士を招き、全国4都市で講演会を開催しました。博士は自己の体験の中から「LIFE is CHALLENGE」と日本の若者にチャレンジ精神を訴え、深い感銘を与えました。

○83/11-84/3 ギュスターヴ・ドレ作「天国と地獄」とインド・マンダラ世界を描いた「全方位極楽」の宗教絵画をライブのロック音楽と一体化させた実験的試み—電気紙芝居をクリエートしました。「宗教と実存」についての講演とあいまって「心」の存在を探し求めている若者に強烈なインパクトを与えました。

○84/8 フランス精神分析医と日本の著名な学者を招き、国際シンポジウム「日本の心・フランスの心」を開催しました。現代人の置かれている精神状況や日本人の「心」の深層をさぐり、東洋思想の現代における可能性を求め、討議しました。(このシンポジウムは来年1月号の「思想」岩波書店に掲載される予定です)

○84/11 国際シンポジウム「青年の現在 パリ—名古屋」を計画しております。ここでは、今日の「青年」をとりまく諸問題について、歴史をさかのぼって比較し、さらに現代のフランスの知識人の自己形成の体験を通じて語ることにより、その核心に光りを投げかけようとする意欲的な試みです。

同時に設立する「河合文化教育研究所」で私どもは、こうした今までの活動を引き継ぎ、さらに皆様方の幅広いご支援と有益なご指導を頂きながら独自の研究活動や講演会、シンポジウムなどの文化活動を発展的に推進させたいと考えております。

一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

## これまでに行ってきた講演会・レクチュア

- 1977 ● 谷川晃一 60年代の美術状況  
 新藤 信 M. Cエッシャー  
 小野忠重 版画史  
 野村太郎 現代ドイツの美術状況  
 谷川晃一 フンデルトワッサーの今日的意味  
 土谷 武 彫刻論
- 1978 ● 野村太郎 表現主義とその時代  
 種村季弘 ダダイズムとは何か  
 前田常作 前田常作・作画の世界  
 池田龍雄 梵天之塔  
 中村 裕 コミュニケーション論  
 山口勝弘 未来派とキュビズム  
 吾妻兼治郎 マリーニと私  
 佐藤忠良 実技講義—彫刻論
- 1979 ● 谷川晃一 今日の美術をどう考えるか  
 石崎浩一郎 アールヌーボーの今日的意義  
 種村季弘 今日のマニエリズム  
 前田常作 アクリル画ゼミ  
 谷川晃一 アールポップの時代  
 荒川修作 意味のメカニズム  
 篠田守男 現代美術ゼミナール  
 横尾忠則+谷川晃一 対談・スライド充実の120分  
 木村恒久 フォトモンタージュ手法と発生  
 佐野 寛 コマーシャルフォトの作家達  
 園山晴己 版画特別講義、刷りに関する技術  
 桑原甲子雄 今日の写真表現とは何か  
 安斎重男 アメリカ現代美術の現状
- 1980 ● 佐藤忠良 私の体験から  
 岡田隆彦 アメリカにおける都市と美術  
 田名網敬一 個人映画の世界  
 原 健 版画講義  
 成瀬 弘 ポンピドゥ・センターについて  
 佐野 寛 今日のコマーシャルフィルムについて  
 谷川晃一 都市性と地方性  
 谷川晃一 今日のフォークアート  
 谷川晃一 アールデコ  
 島 好常 島好常氏を囲んで  
 池田満寿夫 私と版画
- 1981 ● 柳原義達 私の彫刻散歩  
 川本三郎 ドイツ映画祭・現代文化のルーツを探る  
 永井和正 グラフィック・デザインの考え方と教育  
 谷川晃一 日常生活と美術
- 1981 ● 谷川晃一 イメージと言語の位相  
 萩野克彦 デザイナーが見たデザイン
- 1982 ● 東野芳明 セザンヌからジャスパージュンズへ  
 谷川道雄+康松 渉+中川久定  
 我が文学・哲学・史学  
 佐野 寛+谷川晃一 今日の広告イメージ  
 中村英樹 シンポジウム コード化される新たな表現  
 栗津 潔 日本の伝統文化とデザイン・美術
- 1983 ● 飯田善国 ヘンリー・ムーアと私  
 吉井徹郎 野球英語も実力のうち  
 窪田般彌 ギュスターヴ・ドレとその時代  
 畑 敏雄 ひろがる高分子の世界  
 河村要助 自作を語る  
 鬼頭秀一 生命原形質流動  
 平井亮一 類像の語るもの  
 平岡定海 東大寺の歴史  
 赤瀬川原平(尾辻克彦) 尾辻克彦が語る赤瀬川原平  
 河田龍夫 確率の話—その応用について—  
 栗本慎一郎 市場幻想としての芸術  
 笠井 潔 SFの世界にみる天国と地獄  
 旗 照夫 魅力ある人間関係について  
 J. R. ルースマ 人間と宇宙  
 中沢新一 天国・極楽・シャングリラ  
 川本三郎 アジア映画の傾向と感性  
 上野昂志 中国人のユートピア観と西洋文化  
 木村恒久 大衆文化とシンボル  
 三浦雅士 東洋の多元的世界と現状
- 1984 ● 筑紫哲也 若者にとっての現代  
 黒井千次 青春と自己表現  
 斉藤格+谷川晃一 ヒンドゥー教宗教画の世界  
 工藤哲巳+山口昌男+安斎重男+谷川晃一+馬場駿吉  
 +小倉正史 美術の神風 工藤哲巳の受験時代と現在  
 針生一郎 ボイスの芸術と社会活動について  
 若江漢字 ボイスの作品の傾向  
 小野耕世 スーパーガールが飛ぶ  
 秋山邦晴 パイクのテクノロジー・アートと反アート  
 安土修三 パイク・オペラ  
 馬場駿吉 現代美術と私の周辺  
 山本富章+平林薫+古井智+堀啓至+南條史生  
 美術における現代性と浪漫主義  
 南條史生 世界のアート・ニュース

## これまでに行ってきた展覧会及びイベント

日 程	タ イ ト ル	関係アーティスト
1980. 9 / 13 ~ 9 / 29	山田正孝ドローイング展 “ONE'S LIFE IN TOKYO”	
10 / 4 ~ 10 / 19	島好常ドローイング展	
10 / 26 ~ 11 / 10	小杉武久テープコンサート	小杉武久
11 / 15 ~ 11 / 16	映画「幻想のティダン」	
11 / 23 ~ 11 / 30	造形センター版画教室展(池田満寿夫による作品講評)	池田満寿夫
1981. 1 / 14 ~ 1 / 15	ピンク・ノイズコンサート	小杉武久 吉沢元治 浜田剛爾 水上旬
4 / 19 ~ 4 / 30	ヨーゼフ・ボイス展	
5 / 17 ~ 5 / 31	造形センター日本画教室展	
6 / 12 ~ 6 / 21	マリノ・マリーニ展	
7 / 22 ~ 7 / 31	エミリオ・グレコ展	
9 / 14 ~ 9 / 23	アントニ・タピエス展	
1982. 7 / 19 ~ 12 / 19	NEW CODE WIRING 展 「コード化されるあらたな表現」	保科豊巳 村松正之 土屋穰 戸谷成雄 井川惺亮 田中睦治
1983. 1 / 8 ~ 1 / 30	NEW CODE WIRING 資料展	
2 / 5 ~ 2 / 13	小杉武久音場空間イベント'83	小杉武久 吉沢元治 高木元輝
3 / 5 ~ 3 / 21	ヘンリー・ムア展	飯田善国
3 / 26	「いま!! 東松照明の世界」スライド上映会	東松照明
4 / 10 ~ 5 / 1	ギュスターヴ・ドレ展	
5 / 14 ~ 5 / 29	河村要助展	河村要助
6 / 4 ~ 6 / 26	JUNE TRANSFER — 版画展 —	安東奈々 木村秀樹 北辻良央 辰野登美子 山本容子
7 / 3 ~ 9 / 18	絵画のアポカリプス	星野勝成 川村勉 加藤啓 内藤晴久
10 / 16 ~ 10 / 30	展覧会 “赤瀬川原平の世界”	
11 / 6	電気紙芝居「天国と地獄」(東京・名古屋)	吉野大作 & プロスティチュート
11 / 20 ~ 12 / 18	A STYLE OF PHOTOGRAPHIC REPORT IN CHINA	島尾伸三 潮田登久子
1984. 3 / 6 ~ 3 / 14	電気紙芝居「全方位極楽」(東京・名古屋・広島・福岡) 「天国と地獄」(東京・名古屋・大阪) 「伝説のアバロン」(東京・名古屋)	ヒカシュー 吉野大作 & プロスティチュート
3 / 3 ~ 4 / 8	ヒンドゥー教宗教画の世界展	
4 / 14 ~ 4 / 28	工藤哲巳展(美術の神風工藤哲巳の受験時代と現在)	工藤哲巳
4 / 14	パフォーマンス「遺伝染色体による無限の綾取り」	工藤哲巳
7 / 21 ~ 8 / 5	ヨーゼフ・ボイス展	
8 / 3	シンポジウム「日本の心・フランスの心」	J.M. ゴディリエール F. ダヴォワンス 井筒俊彦 河合隼雄 木村敏 中川久定 土居健郎 山折哲雄 湯浅泰雄
8 / 11 ~ 8 / 26	ナム・ジュン・パイク展	
9 / 15 ~ 9 / 24	「液晶の虹彩」展	馬場駿吉
9 / 15	吉増剛造パフォーマンス	吉増剛造
9 / 29 ~ 10 / 14	NEW CODE WIRING Part I 展	山本富章 平林薫 古井智 堀啓至